

幸せな老後を過ごす

# シニア・チワワのケア

文\*岩崎雅和先生  
(獣医師／岩崎動物病院)

横尾奈穂先生  
(ドッグトレーナー／岩崎動物病院)

イラスト\*ヨギトモコ

## はじめに

日本では1970年代より飼育され、近年では日本の住宅事情に適した大きさと、飼い主さんに対する愛情の強さなどによって不動の人気を見せるチワワ。15歳を超えて元気なチワワも多く、比較的長寿のイメージを持っている方も多いのではないでしょか。

チワワは飼い主さんへの忠誠心が厚く、環境への好奇心も年齢にかかわらずおう盛な傾向があります。また、仲間がいると大胆で気が大きくなり、ほかの犬種に比べて同じ犬種同士で仲良くなりやすいようです。

豊富な運動量が必要な犬ではないため、飼い主さんはいつい屋内で刺激の少ない暮らしをさせてしまいがち。しかし、忠誠心や好奇心といったチワワの資質を毎日のお散歩や遊び（トレーニング）によって刺激してあげたり、満足させてあげることが長寿の秘けつと言えそうです。

屋外（たとえば公園やハイキングコース）の景色や香りを楽しませてあげたり、飼い主さんとの新しい遊び（トレーニング）の実践、若いチワワとの張り合いのある生活などを、さまざま「生きがい」を作つてあげることこそが脳を活性化し、老化を遅らせるカギとなるでしょう。



## 起こりやすい病気

●生殖器疾患（「子宮蓄膿症」、「精巢腫瘍」など）

「前立腺肥大」など

去勢・不妊手術をせずに高齢期を迎えると、高い確率で生殖器関連の病気を患い、寿命を

縮めるケースもあります。繁殖を行わない場合は、生後8カ月までに手術をすることをお勧めします。

### ●腫瘍性疾患（「乳腺腫瘍」など）

高齢期を迎えると、毎日発生しているガン細胞の増殖を自身の免疫力で防げなくなります。チワワは乳腺や皮膚、内臓にも腫瘍がでやすい犬種です。もちろんすべてがただちに悪性をするものではありませんが、しっかりと定期検査で調べてもらい、手遅れにならないようにしましょう。

### ●循環器疾患

〔「僧帽弁閉鎖不全症」などの弁膜症〕

初期は無症状ですが、聴診で心雜音を確認できます。進行すると運動時にすぐ疲れたり、苦しそうに息をするようになります。初期段階での治療によって寿命に数年間も差が現れますので、年に一度は動物病院で精密な検査を受けるようにしましょう。

### ●筋骨格筋の疾患

〔「膝蓋骨脱臼」や「椎間板ヘルニア」など〕

若いときにひざのお皿が外れやすいとかつていても、手術をしないままになってしまつた犬は、徐々に病状が進んでいるのではな

いでしょうか。

ひざの手術は命に直接関係ないかもしれません。しかし、足腰の健康が精神的な若さを維持するのに重要なことは、容易に想像できるかと思います。7歳ごろまでに足腰の環境を見直し、早めに整えてあげてください。

### ●口腔内疾患（「歯周病」や「虫歯」など）

口のニオイが気になるようなら、すぐに動物病院へ足を運びましょう。早期であれば、歯石除去処置や1～2本の抜歯で済みますが、時間の経過とともに隣の歯も蝕まれ、時には1回の処置で20本近くの抜歯が必要になることもあります。口腔内の環境を清潔に保つための毎日のデンタルケアは、嗜むという楽しみと同時に寿命を延ばすことにつながります。

## 生きがいづくりのヒント

愛犬が年を取ると、病気にかかりやすくなったり、体の自由が利かなくなったりと、さまざまな変化が訪れます。そういう変化を目にして、時に飼い主さんは悲しい気持ちになることもあるでしょう。

でも、そこからも愛犬と飼い主さんの「すてきな時間」が続くのです。「今までありがとう」「これからもよろしくね」。さらに「まだまだ長生きしてね！」……。これまで長い年月をともに過ごしてきた愛犬へ、恩返しの気持ちも込めて、ぜひ新たな生きがいを作つてあげてください。

脳細胞は毎日「新しい刺激」と「欲求」によつて活性化しているといわれています。愛犬が喜ぶような生きがいを作つてあげることでワンコの脳を活性化し、痴呆などの認知症の症状や、身体的な老化を遅らせてあげることができるはずです。

生きがいの方法は、1頭1頭違うもの。でも、難しく考えないでください。これまでのワンコとの暮らしを振り返れば、きっと愛犬にぴつたりの生きがいが見つかると思います。下記に「生きがいづくりのヒント」を集めました。ぜひ、愛犬のことを考えながら読んでみてください。

また、愛犬のことを考えながら読ん

### hint 1 お散歩

心臓に疾患があったり腫瘍を患っている場合は、体力的に無理は禁物です。でも、**外で日光に当たったり、風を感じるだけでも、脳への刺激になります**。歩くのが難しければ、スリングやカートでのお散歩という方法でもよいでしょう。

目が見えにくくなったり、足腰が弱ってきている犬には、訪れたことのない場所は不安やケガの原因となるかもしれません。散歩は慣れた場所で行いましょう。



### hint 3 スキンシップ

被毛を引っ張らないようなやさしいブラシを使って、ブラッシングをしてはいかがでしょうか。ロング・コートだけでなく、スムース・コートのワンコにも、**血行促進のためにぜひブラッシングをしてあげてください**。

さらに、愛犬の手足を意識的に伸ばしてあげるのもお勧め。一步進んで飼い主さんがドッグマッサージを習得すれば、ワンコのリラックス効果も上がり、信頼関係も向上します。

### hint 2 環境の整備

視力が低下したり足腰が弱ってきたら、お部屋の模様替えなどはなるべく控えるようにしましょう。シニアになると、新しい環境に慣れるまでに時間がかかるもの。なるべくこれまでと変わらない環境で過ごしたほうが、安全・安心につながります。

### hint 4 トレーニング

探してみると、高齢犬を対象にしたドッグトレーナーさんがあります。おやつやフードを使って、オスワリやフセ、オテなど簡単なコマンドを教えて楽しく過ごすのが目的となります。

若いころに比べると習得に少し時間がかかると思いますが、それも愛犬と過ごす大切な時間です。アイコンタクトでキラキラとした目を見るたびに、「もっと楽しませてあげたい」、「ほめてあげる機会を作つてあげたい」と思うようになるでしょう。

